

## 1 学期朝礼講話

おはようございます。

先日は素晴らしい南稜祭文化の部を見させていただきありがとうございました。皆さんのパフォーマンス、団結力、初めて参加した1年生はいかがでしたか。皆さんの楽しそうな笑顔から私自身も元気をいただきました。

さて、新学期になって2か月間たちました。ここで立ち止まって改めて振り返ってほしいと思います。いつも3つのことを挙げています。1年生には新学期早々の校長講話でも話しましたが、集中して授業に挑んでいるか。友だちを大切にしているか。失敗はしてきたか。この3つのことですが、いかがでしょうか。私は毎日午前、午後校舎内を歩いています。

一つは先生方の授業の様子を見るためです。しっかり授業をしているか確認です。なにしろそうしたことが給料にも反映する時代ですから、大切な観察です。次に皆さんがどう授業に臨んでいるか。別に私が歩いているかといって挨拶をする必要はありません。なかには集中どころか寝てばかりいる人はいないでしょうか。そういう人もいますよね。

そして友だちのことをどれだけ思っているか。先生方からあれだけSNSに挙げるなど言われているにもかかわらず、友だちの悪口を挙げる人、とても友だちを大切にしているとはいえないですね。

三つ目の失敗をすることについては、試合でしでかしてしまった人…、これこそ次の試合の教訓にしてほしいと思います。恐れることはありません。3年生で最後の試合に失敗してしまった人は、次のステージ、つまり新たな進路先でそれを生かしてほしいと思います。何事も失敗をしなければ前へ進めないからです。これらのことを今一度頭に入れて1学期を過ごしてほしいと思います。

次に、2年前のこの朝礼で話したことを伝えます。3年生は覚えているでしょうか。中学校の教員になって間もなく首から下の自由を失った星野富弘さんの話です。先日星野さんが亡くなられましたが、彼は手足の自由を奪われても口に筆をくわえて絵や詩を描き続けました。体育の授業中にマットで倒れた際に頸椎を骨折し、そのことで首から下の神経を失います。絶望の中で死のうと思っても死ねない。皆さんだったらどうしますか。星野さんはその中で素晴らしい絵を描くにあたり、口に筆をくわえて描き、その絵は人を感動させ、そしてそのことで自分も生きる道を見つけたのでした。

同じような方が3年前の東京オリンピックのパラリンピックに出場していました。その方はブラインドランナー、目の不自由なマラソンランナーでした。道下美里さんという方ですが、彼女は中学校の時に目の病気で右目の光を失います。片方の目で彼女は生きる道を見つけ、短大で調理師への道を進もうとしました。ところが今度は左目の病気に襲われます。かろうじてうすぼんやりとした光が見える程度で、ほとんど見えません。おそらく彼女も絶望の淵に置かれたとおもいます。皆さんだったらどうしますか。どう行きますか。

そこで、彼女は盲学校、現在の視覚特別支援学校に入り直します。しかし入学後ダイエットを迫られました。おそらくメンタル的に追い込まれて過食症になったのではないのでしょうか。そこで以前やっていた陸上を始めます。つまり新たな生きる道探しです。

そこで彼女は走ることの喜びを改めて知ります。目が不自由でも伴走者といって一緒に走ってくれる方がいるので、走れるんですね。口で筆を加えた星野さんと似たようなケースです。そして東京オリンピックのマラソンで優勝します。タイムはほぼ3時間、42.195キロをこれだけの速さで走ったのです。年齢だって50歳に近いです。今度のパリオリンピックのパラリンピックの出場権を先日得たことを伝えていました。

皆さんいかがですか。新学期から2か月たってこれから先の目標を見失っている方、明日からどうしていったらいいかわからない方…、これまでに不幸に見舞われながらもこういう人たちがいるんです。二人とも絶望から生きる道を見つけた人たちです。是非こういった方がいるんだということを知ってください。

星野さんの絵は大変心を打つものがあります。私の母親は毎年星野さんのカレンダーを買っていましたが、これからはどうなるんだろうと言っていました。

以上で校長講話とします。

(令和6年6月7日、朝礼)